

KOBE YMCA NEWS



神戸青年 No.618

2012.9・10 Sep・Oct.

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/櫻井 英治
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA
年間聖句

確かに未来はある。
あなたの希望が断たれることはない。
(箴言23章18節)

第25回チャリティーワインを楽しむ会

7月27日(金)、チャリティーワインを楽しむ会が開催されました。今回で第25回目を迎えるこの会は「盛夏を楽しむワインと料理」と題して、神戸ポートピアホテルの宴会場レヴァンテで、今までより少し豪華な内容で開催され、ワインは、今回も神戸ポートピアホテル・チーフソムリエの岡本博文氏に選んでいただき、今回ご参加いただいた50名の方々には、一流ホテルの豪華な雰囲気の中、岡本ソムリエの説明に耳を傾けながら、美味しいワインと美味しい食事で楽しいひと時をすごしていただきました。ワインはご好評いただき、用意していた販売用は完売しました。また、ワインと食事を楽しみながらチャリティーオークションを開催し、ご寄贈いただいた品物も完売しました。チャリティーワインを楽しむ会の収益金は、経済的理由で神戸YMCAのプログラムに参加できない青少年の支援を目的とする「神戸YMCA子ども奨学金」に捧げられます。会を開催するにあたって、実行委員の皆様、岡本氏をはじめ神戸ポートピアホテルのスタッフの皆様、神戸YMCA学院専門学校ホテル学科の学生他、多くの方にご協力をいただき、無事会を終えることができました。深く感謝申し上げます。チャリティーワインを楽しむ会が、これからもさらに幅広く多くの方に関わっていただける会になるように、委員会一同努力してまいります。次回の参加をお待ちしています。



第15回 チャリティーラン

毎年11月3日に、神戸YMCAチャリティーランが行われます。今年で15回目を迎えます。これまで多くの参加者やボランティア、協賛企業の方々に支えられ、たくさんの方の収益金を集めることができています。この大会の収益金は、障がいのある子どもたちを支えるために使われ、神戸YMCAでは、障がいをもった子どもたちのプログラム「チャレンジド」でのキャンプ活動の活動費の一部に使用されています。



「チャレンジド」のメンバーは日常生活の様々なことに時間がかかってしまいがちですが、ひとつひとつに時間がかかってもできるようになっていくこと、これが彼らにとって大きな一歩となります。そのためにはメンバーを見守り、リードしていく多くのボランティアの力が必要です。直接サポートはできなくても、チャリティーランに参加することで、「チャレンジド」のメンバーへの大きな支えになっています。より多くの方にご参加いただければ幸いです。

今年も11月3日(土・祝)にしあわせの村を会場に行われます。小学生駅伝や一般駅伝、みんなで楽しく走るグループランなど、走る力に応じて参加できるプログラムを用意していますので、ぜひご参加ください。詳しくは、チャリティーラン事務局までお問い合わせください。

今年、誰かのために走ってみませんか？

- 【と き】2012年11月3日(土・祝)
- 【と ころ】しあわせの村ジョギングコース
- 【プログラム及び参加費】
 - 小学生駅伝 (1チーム 2,000円)
 - グループラン (1チーム 5,000円)
 - 駅伝 (一般/女子) (1チーム 10,000円)
- 【協賛金 (任意)】
 - 企業・団体 1口 20,000円
 - 個人 1口 3,000円以上
- 【お問い合わせ・お申し込み】
 - 神戸YMCAチャリティーラン事務局
 - TEL078-241-7201 または各YMCAまで

7月14日、六甲部第1回評議会を開催しました。高橋昌明講師の講演「清盛がめざしたもの」は好評でした。そのあとの8クラブ納涼会は、おしゃべりにがいデンパティーが開催され、70人が楽しめました。また、ワイズメンズクラブの祭りでもある六甲部部会が、9月8日(土)にホテル竹園荳屋で開催されます。飯田義雄ワイズの想いを継承し、みんなで歌おう、を実践します。もちろんキャンプもスリッパして身も心も若返ります。こんな楽しいワイズメンズクラブに、どうか興味を持っていただきたいのです。私は、山梨県出身で海も知らずに育ち、余島のキャンプの楽しさも知りません。しかし、荳屋クラブを立ち上げて14年。いま、YMCAを支援する応援団としてのワイズのことがかつてきました。六甲部の8クラブ170人とともに神戸YMCAに関わってまいります。昨年、神戸YMCA125周年を祝いました。次なる目標は150周年でしようか。大きな目標に向け頑張ります。



2012-13年度
六甲部部长となつて
1カ月。次期部長の
飯田義雄ワイズ急逝
のあとを受け、2度
目の部長を拝命しま
した。2度目とあつ
て多少の余裕もあ
り、ただ今、楽しいワイズ生活を目指し
て六甲部8クラブに関わっています。
YMCAの応援団と称するワイズメン
ズクラブですが、名古屋から西の日本
区の会員数はわずか1,700人。しか
し各地のYMCAと協働して大きな力と
なっています。
神戸YMCAの余島キャンプでリー
ダーの経験をした会員がたくさんいます。
いま心に思うものは、リーダーとして活
躍してYMCAを卒業していった多くの
OB、OGが、YMCAに繋がるワイズ
メンズクラブに戻ってきて欲しいとい
うことです。



150周年に向けて

ワイズメンズクラブ国際協会
西日本区六甲部部长
上野恭男

東日本大震災復興支援活動報告

福島の子どもたちと共に

福島の子どもたちを迎えて、余島でキャンプを行いました。三菱商事の支援を受けて実施した、三菱商事YMCAフレンドシップキャンプ「余島サマーダイヤモンドキャンプ」。このキャンプでは啓明学院高校生もリーダーとして活躍しました。

もう一つは、コープこうべと兵庫県ユニセフ協会との協働による「福島の子ども保養プロジェクトinよしまキャンプ」。このキャンプはコープこうべの組合員や職員、そして、兵庫県ユニセフ協会のボランティアや職員、福島大学学生ボランティアの方にも協力いただきました。

公園でも校庭でも遊ぶことのできない、海で泳いだり、釣りをしたりすることができない、子どもが当たり前のようにできることが許されない、そんな環境で過ごしている子どもたちとのキャンプ。余島ですごすうちに日焼けし、大きな声で笑いあい、歌い踊り、喜びがあふれるキャンプでした。

自分のいのちを一日一日生きていくこと。
自分のいのちを輝かせること。
そして隣の人のいのちも輝かせることを
誓いあって、再会を約束しました。



様々な方々の支えがあって実施できたキャンプでしたが、子どもたち自身の意志があってこそ与えられた豊かなキャンプでした。大人には、未来を創る子どもたちがいきいきと過ごすことのできる社会を守る責任があります。子どもたちが希望を感じ、互いに喜びを分かち合える機会を創り出す責任があります。そんなことを強く感じる日々でした。今後もこのような機会を様々な仲間とともに創り出していききたいと思えます。先の見えない状況だからこそ、希望のある未来を子どもたちとともに信じて歩みたいと思います。今後とも皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(キャンプディレクター YMC A 保育園副園長 松田康之)

ボランティアバス報告

7月23日から26日、神戸YMCAボランティアバスは、啓明学院高校生と教員35名、シアトルYMCAから3名、神戸YMCAちとせ幼稚園・西神戸YMCA幼稚園教諭5名、YMCAスタッフ1名の44名で、仙台YMCA被災地支援対策室を通じて支援活動に向かいました。石巻市で瓦礫の撤去、亘理郡山元町で農家のビニールハウスを建ててお手伝い。石巻市では120分のごみが2日間であつたようで、瓦礫が山積みで、半壊した家もまだ残っています。少しでも復興が進んでいればと期待していましたが、一年前と変わらない状態を見て、復興の難しさを感じました。農家の方が、「まだ夜は怖くて眠れないことがある。」と話されていました。被災地の方々には希望をもち、前を向いて歩いていこうとされています。そのことを忘れずに私たちは祈り続けます。



(参加者 神戸YMCAちとせ幼稚園教諭 川崎真波)

街頭募金報告

東日本大震災復興支援チームリーダー会では、震災から1年半たった今も、月に1回、三宮で街頭募金活動を行っています。主に大学生のリーダーたちは、まだできることがある、自分たちができることは何なのかと、模索し問いかけながら活動をしています。リーダーの問いに答えてくださる方々からのご支援や励ましが、次の力となっています。いただいた募金は、被災地YMCAを拠点に支援活動を行うために、また、これからの支援活動継続のために、特に、被災した子どもたちの心身の健康な成長を支援することを目的として使わせていただきます。これからもご支援をお願いいたします。



保育園



西神戸YMCA保育園は、神戸市西区学園都市に位置する認可保育園です。(0歳児-5歳児定員70名)

今夏、毎年恒例の小豆島へのキャンプに、7月25日から2泊3日、姉妹園YMCA保育園のゆり組(5歳児)と一緒にに行ってきました。森と海に囲まれたキャンプ場(YMCA Camp Yoshima)では、日中は、海で磯遊びをし、夜は、キャンプファイヤー、そしてお部屋のなかでは神様のお話を聴き、そしてお話をし、寂しくなることもなく、真っ黒に日焼けした姿で、また家族から離れて過ごした自信からか、少し大きくなって、神戸へ帰ってきました。

子どもが自然の中で遊び、生活をする3日間、保育園での毎日の生活とは違う、子ども達の新しい一面がまた発見されました。こうして、YMCAの保育園は、自然とともに歩む子どもに育ってほしいと願いつつ、このような行事も実施しています。夏が終われば、秋のふれあい運動会です。今秋は10月6日(土)に近隣の小学校の校庭、体育館をお借りして、YMCA保育園と合同で実施します。



幼稚園



「長い夏休みの間は、幼稚園はどうしているのですか?…」と、思っておられる方もいるかも知れません。

西神戸YMCA幼稚園では、1学期終業式と同時に、「夏休みプレイクラブ」が始まります。

夏休みの間、8:45から17:15まで園児をお預かりしています。通常保育とやや異なっていることは、午前中で帰る園児もいれば、午後から登園してくる園児もいます。各家庭の都合や、働いている保護者の勤務時間に合わせてや、子どものリクエストに応じて登降園の時間は異なります。

異年齢の子どもたちが家庭的な雰囲気の中で、しっかりと遊ぶことができます。「小学生プレイクラブ」にやって来ている小学生とも交わりがあります。小学生が「宿題」をしている時間は、特に「静かにしましょう」の言葉かけはしなくても、園児は静かに遊んでいます。また疲れてお昼寝をしてしまった年少組さんや年中組さんのお友だちがいたり、小学生も「静かにせなあかんあ」と言って遊んでいます。たくさん兄弟姉妹が同じ部屋で遊び、勉強し、おやつやお昼ご飯を食べ、お昼寝をしている『大家族の夏休みの風景』のようです。夏ならではの…の水遊びのおもちゃ作りや、涼しく美味しいお菓子作りや、プール遊び…いつもの幼稚園ですが、いつもと少し違う家庭的な雰囲気の幼稚園の夏休みを過ごしていました。



九州北部豪雨災害緊急支援募金

7月11日からの記録的な豪雨により、熊本や大分など九州各地で河川の氾濫やがけ崩れなど、甚大な被害をもたらしました。熊本YMCAは、阿蘇のキャンプ施設をボランティア活動センターとして、地域行政とも連携しながら、全国からのボランティアの受け入れや地域の復旧活動を行っています。神戸からも様々な形で支援を行いたいと思います。皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

神戸YMCAは、全国のYMCAと、神戸のNGOネットワークを生かし、被災地を支援します。

【熊本YMCA阿蘇キャンプ場をボランティア活動センターとして】

- ・「YMCA阿蘇災害支援ボランティアハウス」開設し、県内外からのボランティアを受け入れる。
- ・ボランティア活動は、地域の諸団体とともに情報交換を行いながら進める。
- ・地域の被災者に対して、宿泊・食事・入浴等の提供を行う。



支援方法

お近くのYMCAへ緊急募金をお届けください。またお振込みも可能です。この募金は寄付控除の対象となります。詳細はお問合せください。

募金期間
2012年7月16日～2012年9月30日
銀行口座 三井住友銀行三宮支店
口座番号 普通預金 NO.3136953
口座名義 神戸YMCA
通信欄に「九州」とお書きください。
お問合先
国際・奉仕センター
Tel:078-241-7204
E-Mail: houshi@kobeymca.org

感謝・寄付

(順不同・敬称略)

- ・ 寄付 朋 谷川
- ・ 国際協力募金として 宝塚ワイズメンズクラブ 今田 稔 水野 雄二
- ・ 東日本大震災復興支援募金として (福島の子どもたち招待キャンプ) 西神戸YMCA保育園、YMCA保育園、ワイワイ祭り実行委員会 (神戸YMCAボランティアバス) 神戸大学YMCA
- ・ 宝くじ協会からテント寄贈 財団法人日本宝くじ協会様より、西神戸YMCA保育園、YMCA保育園、神戸YMCAちとせ幼稚園へテント5張りを寄贈いただきました。幼稚園児、保育園児の夏期のプールや、地域の就園前親子を対象にした、園庭開放活動の他、各地域における行事などに使用されます。感謝を持ってご報告させていただきます。

神戸YMCA・シアトルYMCA中高生交換プログラム

神戸YMCAとシアトルYMCAの間で中高生交換プログラムが始まってから、46年が経ちます。お互いの中高生は、海外でのボランティア体験を通じて、リーダーシップを養い、同年代の仲間との交流やホームステイ体験を通して異文化を学びます。また、初めての海外生活を体験する参加者も多く、ホストファミリーの方々に多大なご協力とご支援をいただいています。

「シアトルYMCAグローバル・ティーン・プログラム」

今夏、シアトルYMCA グローバル・ティーン・プログラム（交換プログラム）は、7月17日～31日、参加者9名と引率者2名の11名での来日となりました。滞在約2週間の前半を神戸で過ごし、後半を余島野外活動センターで瀬戸内の自然を満喫し、広島で平和を、そして京都では文化・歴史を学びました。

神戸では、市内散策はもちろんのこと、カトリック社会活動神戸センターの炊き出しのお手伝い、神戸市立工業高等専門学校での交流と学び、西宮YMCA保育園での園児との交流、そして、人と未来防災センター訪問、平和を考えるワークショップ（ポーボキ・ピース・プロジェクト）への参加他、本当に多くの方々との出会いと交わりがありました。余島には、「明日の指導者は今日つくられる」と掲げられていますが、この言葉どおり、滞在中は積極的にプログラムに参加し、人と関わり、関係を築き上げるティーン姿が見られました。

シアトルYMCAからは、ランゲージセンターが開講する「夏期日本語集中コース（4週間）」に参加した学生11名も受け入れました。このなかの高校生2名は、神戸YMCA東日本大震災復興支援ボランティアバスで啓明学院高校生の皆さんとともに被災地での活動も行いました。

私たち神戸YMCAのパートナーであるシアトルYMCAとの多種多様な交流プログラムは、多くの方々によって支えられ長く続けていくことができていると思います。これからも明日の指導者をつくるために皆様とともによりよい活動を継続させていきます。



神戸YMCA ユース・エクスチェンジ・プログラム

少し緊張した面持ちで関西国際空港に集まった中高生15名のメンバーが、その12日後には自信にあふれた、晴れぱれとした笑顔で解散することができました。7月30日～8月10日まで10泊12日、アメリカ・シアトルの街で大勢の方々との出会い、時には困難な状況もありましたが、自分たちの今持っている力で乗り越えようと各人が努力をした結果だと思えます。

自分たちが生まれ育った国とは違う国へ渡り、自分たちとは違った文化の中で生活してきた人々と出会い、生活を共にしてきました。このことは参加したメンバーの「違いを認め合い、お互いに尊重し合う心」を育む上で、とても重要な経験となったのではないかと思います。今はまだ十分にコミュニケーションをとるだけの語学力がなくても、シアトルの人々が自分たちのことを温かく迎え入れ、理解しようと努力してくれたこと、自分たちもそれに応えようと必死で思いを伝えようと努力したこと、この経験はきっとこれからも参加したメンバーたちの心の中に強く刻まれていくのではないのでしょうか。あるメンバーがホストファミリーとの別れ際に、自分で辞書をひいて考えた英文で、感謝の気持ちと、またシアトルへ来てホストファミリーと再会したいという思いを伝えていました。「I will come to Seattle next year.」短い会話でしたが、思いが伝わり合う素晴らしい瞬間でした。これこそが、これから国際人へと育っていくとする彼らの原点になると信じています。

シアトル滞在中はシアトルYMCAスタッフをはじめ、ホストファミリーの方々にも温かく迎えていただき、様々なサポートをしていただきました。最後になりましたが、このプログラムを支えてくださった全ての方々にも心より感謝いたします。



CSCユースプラザKOBЕ・EAST 藤田良祐

ソナタ 奏鳴曲 No.53



シアトルの空、オスプレイが飛ぶ

総主事 水野雄二

「あっ！ あれ、オスプレイじゃない？」と、Sueさんが朝食の卓をにわかに立つと、我々も眼鏡を手に、窓越しに見えるシアトル・ピュージェット湾の空中を優雅に飛ぶオスプレイに目を凝らします。爽やかなシアトルの夏、涼しい空気を切り裂いて、オスプレイが滑るように飛んでいました。「穏やかで平和」まさしくそんな印象でした。オスプレイ、日本語では「ミサゴ」と呼ぶそうですが、シアトルではシーホーク（海鷹）とも呼ばれ、カナダに近い北西アメリカの代表的な鳥の一つです。

私は7月下旬、神戸市とシアトル市の姉妹都市締結55周年の記念行事参加のために訪米し、市長表敬訪問、神戸市産業展、記念レセプションなどに出席すると共に、シアトルYMCAとの友好を深めるための交流にも時間を割いて、有益な時を過ごすことができました。



そんな一日、私に宿を提供してくださったDon & Sue Birdさんとの朝の食卓でオスプレイと遭遇することになったのです。Birdさんご夫妻は名前の通り、ワシントン州の鳥類には造詣が深いのですが、遠くからの観察でも「オスプレイ」と認識できるバードウォッチングは見事です。

「オスプレイ」その名は、日本では「垂直離着陸輸送機」として、危険で物騒な代物として悪名高い飛行物体ですし、今尚、その導入と飛行訓練、実働には強い反対運動が続けられています。私がシアトルで出会ったオスプレイは静かで平和な鳥でしたが、日本に持ち込まれるオスプレイは危険で戦争につながる「鳥」でした。

悲劇を重ねた日米の戦争が終結した後、神戸とシアトルで育てられた平和と友情には神戸YMCAも少なからず貢献してきました。そして幾十年の後、日本の空には、シアトルで出会った平和なオスプレイに飛んでほしい。そう願わずにはられません。



右 ギルバートソン・シアトルYMCA総主事
中央 矢田神戸市長 左 水野総主事

私は、将来、神戸YMCAからシアトルYMCAに向かう子どもたちの引率をして、将来を担う子どもたちのサポートをしていくことで、今までの感謝の気持ちを込めて恩返しをしていきたいと考えています。



右から二人目が坂口さん

現地では日本の文化や歌を教えるという活動もしました。子どもたちは本当に可愛くて、「Assumi!」と私が日本人ということにも関わらず、他の先生と同じように関わってくれました。今でも、嬉しかった思い出は、まるで昨日のことのように蘇ってきます。

現地と一緒に働いていたスタッフや、リーダーの方々、ホストファミリーの方々も本当に優しく、「私はここで生まれて、ずっとここで育ってきたのではないかと」と錯覚してしまうほど、親身になってくださいました。言葉には表せないほど、本当に感謝しています。私はこの経験を通じて感じた「国境を越えた心の繋がりを」を、子どもたちにも、もっと経験してもらいたいと思っています。

ウエルネスセンター三宮	☎078 (241) 7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078 (241) 7237
ランゲージセンター	☎078 (241) 7204
専門学校	☎078 (241) 7203
西宮YMCA	☎0798 (35) 5987
三田YMCA	☎079 (559) 0075
余島野外活動センター	☎0879 (62) 2241
国際・奉仕センター	☎078 (241) 7204
ウエルネスセンター学園都市	☎078 (793) 7401



Information

西神戸YMCA	☎078 (793) 7402
西神南YMCA	☎078 (993) 1560
須磨YMCA	☎078 (734) 0183
YMCA保育園	☎078 (794) 3901
西宮YMCA保育園	☎0798 (35) 5992
西神戸YMCA保育園	☎078 (792) 1011
YMCAちとせ幼稚園	☎078 (732) 3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078 (997) 7705
西宮つとがわYMCA保育園	☎0798 (26) 1016

Photo Topics



西神南センター体操講習会

「あつね〜」夏の体育館の中ではお決まりの言葉です。そんな中でもいっぱい体を動かす姿を見てみると「子どもたちは元気だなあ」と思われます。今年も3才児から小学生までマットやつぼう、とびぼこ、幼児はトランポリンも使いながら楽しく体操することができました。暑い夏に汗をいっぱいかき、心と体の発散ができることは、子どもたちにとって大切なことです。これから体をいっぱい使って運動して下さいね。



日本語夏期集中コース

7月9日から8月3日まで、日本語夏期集中コースを開催し、昨年より多くの方が参加しました。シアトルYMCA、台中YMCAのグループを中心に、フィリピン、韓国、中国、メキシコ、タイ、ミャンマー、ニュージーランド、イギリスから来られた方々が、4週間、生きた日本語を学びました。日本語の勉強のほかには、ハーバーランド、HAT神戸、大阪や京都にも出かけ、現代の日本と古い日本に接しました。



ホテル学科:夏期ホテル実習

神戸YMCA学院専門学校ホテル学科では、7月上旬から8月中旬まで、1年生はリゾートホテルに、2年生はシティホテルや海外のホテルに実習に行きました。1年生は4月に入学してから教室で学んできたことをホテルで試してみるよい機会。実習といっても、夏のホテルでは即戦力として期待され、本当のホテルの仕事に接することができ、初めてのことは戸惑いながらもよい経験になりました。



西宮ランチ サマーデイキャンプ

夏らしく晴れた中、プログラムを行うことができました。電車に乗る時の公共ルール、自分もお友だちも楽しい一日になるように思いやりを持つこと、生き物や植物にも命があり、その命を大切にすることを確認しました。海水浴では、泳いでいる魚を目の前で見ることができました。磯遊びではグループで知恵を出し合い、魚をとるための仕掛けを作り、見事に獲ることができました。たくさんの人に会い、いろんな命との出会いが多いプログラムとなりました。初めて会ったお友だちばかりでしたが、一日ずっと一緒にいると昔からの知り合いのように仲良くなることができました。最後に、またYMCAで会うことを約束してさようならをしました。



夏の余島主催キャンプ

今夏、余島キャンプには700人を越えるキャンパーたちがやってきました。皆で歌い、皆で思いっきり笑う。ケンカをしたり、さびしくて泣くこともありましたが、その全てがキャンプです。仲良くなった仲間たち、大好きなリーダー、皆で歌ったキャンプソング。思い出を胸にそれぞれの地に戻り、その力強い笑顔で周りを明るく、暖かく照らしていると私たちは信じています。彼らがこの世の希望であり、光であることを感じた夏でした。また余島で会えるのを楽しみにしています。



余島キャンプ場に、今年もICCPJ(台湾YMCAから日本YMCAでの野外活動研修)で台湾から3人のリーダーが来ました。なれない日本の環境の中で、そしてキャンプの中で戸惑うこともたくさんあったと思いますが、とても献身的にキャンプスタッフとしてキャンパーのために奉仕している姿は、まさにリーダーそのものでした。台湾に帰っても子どもたちのためにがんばってください。

★ 個人消息 ★

- 【ご結婚】おめでとうございます。
 - 7月18日 興津貴大さん(CSC・須磨体育館) 山崎優子さん
 - 8月5日 東 寛和さん(ウエルネスセンター学園都市) 依原朋子さん
 - 9月1日 黛 待子さん(YMCA保育園) 多田羅泰史さん
- 【ご逝去】謹んでお悔やみ申し上げます。
 - 7月10日 目崎勝代さん(ホームヘルパーの事務所) ご母堂様
 - 7月29日 西馬 薫さん(カレッジ) ご尊父様
 - 8月13日 坂本孝司さん(西神戸ランチ) ご母堂様
 - 8月16日 藤井とも子さん(本部事務局) ご尊父様
 - 8月21日 今西政弘さん(名誉会員・宝塚ワイズメンズクラブ)

第27回神戸YMCAチャリティーゴルフ大会

第27回を迎えるこのチャリティーイベントは、神戸YMCAの会員活動委員会が主催しています。その収益金は、神戸YMCAの青少年育成活動(障がい児の体育活動、発達障がい児のサポートプログラム、野外活動など)で奉仕している500名を超える若いボランティアリーダーを育てるための支援基金に捧げられます。ぜひ、より多くの皆様ご参加くださるようお願いいたします。

日時: 10月30日(火) 場所: オリムピックゴルフ倶楽部